

平成30年度全国学力・学習状況調査の結果について

平成30年11月28日

白馬村教育委員会

平成30年度に実施された「全国学力・学習状況調査」について、今後の教育活動に役立てるため本村の結果を分析しました。その概要をお知らせします。本調査での測定は学力の一部であり、学校教育活動の一側面です。

1 調査の概要

(1) 調査対象

	小学校児童数	中学校生徒数
全国（公立）	1,030,031	967,196
長野県（公立）	17,849	17,508
白馬村	62	66

(2) 調査内容

①教科に関する調査

主として「知識」に関する問題（国語A、算数A・数学A）

主として「活用」に関する問題（国語B、算数B・数学B）

主として「知識」「活用」に関する問題（理科）

②質問紙調査

児童生徒の生活実態調査及び意識調査

2 調査結果の概要

(1) 教科に関する調査結果の概要

【小学校（6学年）】

教科	全国平均正答率	下回る	やや下回る	同程度	やや上回る	上回る
国語A（知識）	70.7%		○			
国語B（活用）	54.7%			○		
算数A（知識）	63.5%		○			
算数B（活用）	51.5%		○			
理科（知識・活用）	60.3%			○		

【中学校（3学年）】

教科	全国平均正答率	下回る	やや下回る	同程度	やや上回る	上回る
国語A（知識）	76.1%				○	
国語B（活用）	61.2%			○		
数学A（知識）	66.1%			○		
数学B（活用）	46.9%			○		
理科（知識・活用）	66.1%			○		

（2）各教科の調査結果の概要

【小学校（6学年）】

① 国語

主として知識を見る「国語A」の領域別結果では、「書くこと」が全国平均を上回り、「話すこと・聞くこと」が全国平均と同程度で、「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が全国平均をやや下回る結果でした。

また、主として活用力を見る「国語B」では、「読むこと」が全国平均を上回り、「話すこと・聞くこと」が全国平均と同程度で、「書くこと」が全国平均をやや下回る結果でした。

今後、目的に応じて情報を捉え、主語と述語の関係を正しく書き直す問題を解く、また、文中で使われる漢字を正しく使うことが求められます。

② 算数

主として知識を見る「算数A」の領域別結果では、「量と計測」が全国平均と同程度で、「数と計算」が全国平均をやや下回り、「図形」「数量関係」が全国平均を下回る結果でした。

また、主として活用力を見る「算数B」では、「数と計算」が全国平均と同程度で、「量と測定」が全国平均をやや下回り、「図形」「数量関係」が全国平均を下回る結果でした。

今後、図形についての知識・理解の定着を図る指導をさらに充実させ、様々な形の問題に取り組む必要があります。加えて、表やグラフを読み取る力、わかりやすく表す力を養う必要があります。

③ 理科

主として「知識」「活用」に関する問題は全国平均と同程度でした。

今後、実験や観察を重視し、予想を立てたり複数の情報を組み合わせて判断したりする力を育成することが大切です。

【中学校（3学年）】

① 国語

主として知識を見る「国語A」の領域別結果では、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が全国平均よりやや上回り、「書くこと」「読むこと」が全国平均と同程度で、「話すこと・聞くこと」が全国平均をやや下回る結果でした。

今後、「話すこと・聞くことに」に関して、互いの発言を聞き合い、共に課題を解決し、検討し合って自分の考えが広がるような活動を取り入れることが求められます。また、「書くこと」に関して、伝えたい事実・事柄が読み手にわかりやすく伝わるように書く必要があります。

主として活用を見る「国語B」領域別結果では、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が全国平均を上回り、「書くこと」が全国平均をやや上回り、「読むこと」は全国平均と同程度で、「話すこと・聞くこと」が全国平均をやや下回る結果でした。

今後、話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問し、聞き手とのやり取りを踏まえながら、話の全体として伝えたいことを明確にして話す活動を取り入れる必要があります。

② 数学

主として知識を見る「数学A」の領域別結果では、「数と式」「図形」が全国平均と同程度で、「関数」が全国平均よりやや下回り、「資料の活用」が全国平均を下回る結果でした。

今後、「数と式」に関しては、解き方の確認、ドリル学習により一層の定着を図り、「関数」「関数」については、一次関数を理解し、関数関係を見出し、表現する能力を養います。

「資料の活用」は、確率について理解し、それを用いて考察し、表現する能力を養います。

主として活用力を見る「数学B」の領域別結果では、「関数」が全国平均をやや上回り、「数と式」と「図形」が全国平均と同程度で、「資料の活用」が全国平均を下回る結果でした。

今後、「数と式」に関して、正と負について理解し、四則計算を行い、表現・考察出来る活動を行います。「図形」に関して、合同について理解し、論理的に表現できる力を養います。

「資料の活用」については、情報を分析し、不確定な事象を通して確率を理解し、確率を用いて考察・表現する活動を増やす必要があります。協働の学びを通して、問題解決方法を数学的に説明する力を醸成します。

③ 理科

「活用」に関する問題は全国平均と同程度で、「知識」に関する問題は全国平均をやや下回る結果となりました。

今後、「化学」に関しては、復習や確認を行い、「物理」に関しては、光の反射や屈折の実験を行うことで規則性を見出せる活動を行います。「地学」に関しては、気象観測から気温・湿度・気圧・風向などの変化と天気の関係性を見いだせる活動を行います。

(3) 児童生徒質問調査の結果（特徴的な事項について）

【小学校（6学年）】

① 生活習慣について

「朝食を毎日食べている」や、「毎日同じくらいの時刻に寝起きする」児童の割合は全国平均を上回っており、比較的規則正しい生活をしていることが伺えます。

② 家庭学習について

「学校の授業時間以外で2時間以上学習をしている」児童の割合は全国平均をやや下回っています。また、「家で学校の宿題をしている」児童の割合は全国平均と同程度であり、「家で学校の授業の予習・復習をしている」児童の割合は全国平均を上回っています。本村児童の家庭学習は、宿題をきちんと行い、復習や予習をする時間は全国と比べると多い状況にあります。

③ 地域との繋がりについて

「地域社会などでボランティア活動に参加したことがある」生徒の割合は全国平均を下回っています。また、「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」「地域や社会をよくするために考えたことがある」も、全国平均を下回っており、地域の発展に尽くした先人の働きについて理解し、地域社会に対する誇りと愛情を育てる学習を活発に行う必要があります。

【中学校（3学年）】

① 生活習慣について

「同じ時刻に寝ているか・起きているか」という問いに対して、多くの生徒は決まった時刻に就寝・起床ができています。朝食に関しては、9割以上の生徒が毎日食べ、全国平均を上回っており、多くの生徒が規則正しい生活習慣が身についているといえます。

② 家庭学習について

「平日に授業時間以外に学習している時間」は、2時間以上学習している生徒の割合が全国平均の半分以下です。30分以上1時間未満の生徒の割合が最も多くなっています。

③ 地域との繋がりについて

「地域社会などでボランティア活動に参加したことがある」生徒の割合は全国平均を上回っています。また、「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」「地域や社会をよくするために考えたことがある」も、全国平均を上回っており、自らの地域を大切に考えている生徒が多いといえます。中学校では、地域学習により村のイベントへの生徒のボランティア参加を積極的に進めています。地域への積極的な関わりから地域への関心の高さを育みます。

3 学力向上にむけた今後の取組

【学校の取組】

① 授業改善

- ・ねらい、めりはり、見とどけ を意識した日々の授業
- ・互いに聞き合い、伝え合う活動を基盤として、共に課題を解決し、自分の考えを深めることができる「主体的・対話的で深い学び」の実現

② 授業におけるICT機器の活用

- ・授業における基礎的な知識や技能の習得の場面と、習得したことを基に活用する場面でのICT機器の活用

③ 学力の定着

- ・ティームティーチング、少人数学習の実施
- ・ドリル学習の内容の充実、家庭学習の充実
- ・放課後学習の充実（中学校）
- ・家庭学習の質の向上と充実

【村の取組】

- ① 各校の実情に応じた村費による学習支援員及び特別支援教育支援員の効果的な配置
- ② 小学校の外国語、外国語活動への、ALTの効果的な配置
- ③ 信州型コミュニティースクール（地域の教育力を生かした学校教育）の一層の充実
- ④ 電子黒板、タブレット等のICT機器の利活用の推進
- ⑤ 白馬村青少年育成会議・PTA連合会・教育委員会が一体となって進めている、「インターネットの安全・安心な利用」の取組の充実

【家庭の取組】

- ① 規則正しい生活習慣づくり
- ② 家庭学習や読書の時間の確保
- ③ インターネットの安全な利用に関する約束づくり